

第6回 NST専門療法士認定研修

通算第6回となる鹿児島医療センターNST専門療法士認定教育実地修練が平成28年2月15日から2月22日の期間の平日6日間（合計40時間）に渡り開催されました。当院は日本静脈経腸栄養学会認定のNST専門療法士実地修練認定教育施設であり、NST委員会委員長（JSPE N認定医）であるリハビリテーション科医長が実地修練の責任者となり、当院NSTコアメンバーの全面協力のもと運営されました。前回から研修対象生をNST専門療法士認定試験受験検討中の方に絞った関係で鹿児島県内の病院から管理栄養士1名のみを受講となりました。

研修プログラム（合計40時間）内訳は、NST回診・NSTカンファレンスなど参加：7時間、講義受講：20時間、栄養評価実技（嚥下造影検査、PEG造設・交換見学）：2時間、その他（情報収集、カンファレンス準備、レポート作成など）：11時間でした。講義（各30分～1時間）は医師・歯科医師・管理栄養士・薬剤師・看護師・言語聴覚士などが講師となり、内容は、①医師の役割と栄養管理総論、②栄養スクリーニング方法、③経腸栄養剤・栄養補助食品の種類と選択及び問題点、④静脈・経腸栄養剤の種類と選択の問題点、⑤嚥下訓練食紹介、⑥栄養障害の抽出・評価、⑦褥瘡と看護管理、⑧がんと栄養、⑨消化と吸収および胃瘻造設、⑩栄養と代謝、⑪心不全と栄養管理、⑫フレイル・サルコペニアと栄養管理、⑬歯科による口腔管理、⑭NSTと感染対策、⑮摂食嚥下障害、⑯嚥下造影検査実習、⑰がん患者の口腔ケア、⑱NST薬剤師の役割、⑳NST臨床検査技師の役割、でした。今年度は新たに臨床検査技師に講師に加わっていただき、また関連企業からの講演も拝聴することができました。

症例報告は最終日までに栄養障害が疑われる対象症例1例をレポートとしてまとめて提出していただきました。当院在籍のNST専門療法士（管理栄養士、薬剤師、言語聴覚士）を中心に指導を行い、短期間で内容のあるレポートが作成されていました。最終日に研修修了証明書を授与し、全日程を終了いたしました。今回はこれまでの半日研修というスタイルから終日研修への変更でしたが、受講生は一日も遅刻・欠席なく参加され、当院管理栄養士と十分な情報交換の時間も取れ、有意義な研修であったようでした。過去5回の研修生の中から5年続けてNST専門療法士受験合格生が誕生しており、今年度の受講生の成果も期待したいところです。

なお当院はこれまでNST専門療法士実地修練認定研修施設として活動してきましたが、このたび諸事情で施設認定更新を断念することになりました。従いまして実地修練研修も今回の開催をもって終了となります。ご協力いただきました関係各位に御礼申し上げます。

（文責：NST委員会委員長／リハビリテーション科医長 鶴川 俊洋）



■お問い合わせ先 独立行政法人 国立病院機構 **鹿児島医療センター**（循環器・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号
代TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 蘭田・谷口・田上・吉永・吉留・菊永・櫻木・宮崎

【がん相談】 松崎・森・水元・木ノ脇・原田・上妻

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。



連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2016.4 vol.120

第6回 心臓・血管病公開講座

第6回心臓血管病市民公開講座を平成28年3月5日（土）、県民交流センターで開催しました。当日は好天に恵まれ春らしい陽気な一日となりました。この天気によるものが、それとも企画があるいは広報に力を入れてきたのが功を奏したのか、1階大ホールには立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。おそらく600名近い集客を得たと思われました。ご協力をいただいた職員の皆様には改めてお礼を申し上げます。

当日は花田先生の挨拶に続き、特別講演を大阪大学心臓血管外科教授 澤芳樹先生にお願いしました。約50分間の講演では、前半を心臓血管外科治療の最近の trend について Off pump CABG、小切開心臓手術MICS、弓部大動脈瘤の stent graft 治療、更に大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）とお話いただきました。特にTAVIについては高齢者への治療導入による成績向上は目覚ましく、少なくとも本邦においても各県1か所の実施施設が必要であることを強調されました。全国的にも未実施地域は鹿児島を含む5～6県となった現状に対して、導入が決定している当センターではありますが、諸手続きへの対応を加速し早期に実施承認を得る必要があると痛切に感じました。後半は末期心不全患者に対する心臓移植と補助心臓の現況を説明いただきました。移植成績は極めて良好であるにも拘わらず、深刻なドナー不足により移植までの待機期間が3年にも及んでいること、植込み型補助心臓は急速な進歩により移植までの bridge 使用や更に移植を前提としない destination therapy としての有用性にも言及されました。最後に、澤先生ご考案の骨格筋芽細胞シートが医療製品として登場してくる段階を迎え、いよいよiPS細胞技術を応用した心筋細胞シートでの心不全治療への応用も現実味を増しているとの印象を得ました。第二部では当院スタッフによる「弁膜症治療の最近の進歩」について講演しました。田中医師と皆越医師による「心臓病とは」と「弁膜症について」についての概説につづき、外科サイドから上野医師と福元医師により「MICSによる弁形成」と「TAVIに向けて：AS治療の今後」を講演しました。更に今回特別企画として患者さんの立場から重森浩人氏に「手術体験談」をお話いただきました。周術期の患者さんの微妙な精神状態、不安を医療への信頼感によって克服させた経過が手に取るように理解できました。初の試みではありましたが、聴衆の興味をかき立てたものと思われました。今回の講演会が参加者に正しい医学知識を普及させ、患者さんと当院との信頼関係を築き、医療の質を高めていく上で大いに貢献することを祈念します。

（文責：心臓血管外科部長 森山 由紀則）



第3回 鹿児島医療センター院内学会

平成28年3月12日(土)に当院の大会議室で院内学会が開催されました。早いもので今回の院内学会は3回目になります。どの職場においても言えることですが、特に病院においては同じ職場でのスタッフ同士の人間関係はとても重要です。職員の円滑かつ円満な人間関係と相互理解が診療の効率を上げ、ひいては患者さんの利益につながると思います。院内学会は、研究およびその発表を通じて職員間の相互理解を深めるとともに、当院の臨床研究を推進させる目的で行われています。今年の院内学会では全部で17題の演題が発表されました。当日は、ほぼすべての部門の職員の方々が発表を聞いていただき、総数103名(医師23名、看護部31名、薬剤師5名、検査技科11名、放射線科5名、臨床工学室1名、栄養管理室3名、事務部10名、歯科1名、看護学校13名)の参加がありました。



評価者による採点の結果、優秀者は、1位：手術室 梅下陽子さん、2位：第2循環器内科 石川裕輔先生、3位：心臓血管外科 上野隆幸先生、臨床研究部 山本将義さん、事務部伊藤悠さんの5名で、3月15日に行われた合同送別会で副賞とともに表彰されました。

院内学会に対するアンケートでも「各部署が一堂に会するということが重要なのだと思います。今後も続けて下さい。」という意見や「病院全体としてどういう働きをしているのかを知る機会となりました。自分の部門だけでなく、他部門にも目を向けていきたいです。」という意見がありました。

第3回の院内学会になり、年中行事のひとつとして職員間でも浸透しており、年々良くなってきていると感じましたが、学会の運営や演題の評価方法などまだまだ改善の余地のあるところも多いと思います。皆様の御意見をいただければ幸いです。最後になりましたが、ご協力していただきました方々にお礼を申し上げたいと思います。

(文責：臨床研究部長 城ヶ崎 倫久)

第3回 鹿児島医療センター 院内学会 プログラム

I群 座長：血液内科医長 大渡 五月 皮膚腫瘍科・皮膚科医長 松下 茂人

- | | | |
|--|-----------|-------|
| 1. 心筋梗塞後機能的合併症患者において治療方針決定に関わる影響因子の検討 | 第1循環器内科 | 毛利 翔悟 |
| 2. 多職種介入により一命を取り留めた術後急性肺血栓塞栓症の1例 | 第2循環器内科 | 石川 裕輔 |
| 3. スルホニル尿素薬の差別化についての検討 | 糖尿病・内分泌内科 | 伊集院太生 |
| 4. 外来フォロー中に出血、梗塞のイベントを起こしたフォンタン術後患者の検討 | 小児科 | 内山 洋太 |
| 5. 右小肋間開胸(MICS)による僧帽弁形成術(MVP)の経験 | 心臓血管外科 | 上野 隆幸 |

II群 座長：臨床工学室副技師長 宮之下 誠 栄養管理室 尾池 康子

- | | | |
|---|-------|-------|
| 6. 動脈硬化症進展における新たな分子メカニズムの探索 ～インターロイキン33とGRO-αの関わりについて～ | 臨床研究部 | 山本 将義 |
| 7. 当院におけるフェンタニル貼付剤の使用状況 | 薬剤部 | 吉永里香子 |
| 8. 血液製剤の適正使用に向けて | 臨床検査科 | 森 千奈美 |
| 9. 201TI負荷心筋血流SPECT検査におけるデータベースの作成 | 放射線科 | 羽田 里美 |
| 10. カーボカウントを用いた栄養食事指導の標準化に向けて | 栄養管理室 | 廣石さやか |

III群 座長：事務部庶務班長 上山 卓朗 副看護師長 今村 朋子

- | | | |
|--|----------|-------|
| 11. 診療材料費削減の取り組み | 事務部 | 伊藤 悠 |
| 12. 脳卒中急性期病棟におけるFIM導入の取り組み | 東5階 | 恒吉 美穂 |
| 13. 心不全患者の退院指導実施に与える患者側の影響因子 | 東6階 | 東 真梨奈 |
| 14. オペラマスター導入による手術室の効率的運営の報告 | 手術室 | 梅下 陽子 |
| 15. 退院調整加算の算定に繋がらなかった要因分析 | 看護師長研究会 | 米森 初枝 |
| 16. PNSの現状と今後の課題 | 副看護師長研究会 | 濱口 明美 |
| 17. 対人関係能力に課題を抱える学生の自己理解を促すための試み ～ビデオを使用した教育方法を用いて～ | 看護学校 | 小倉 裕香 |

第3回 医科歯科連携講習会を開催しました



鹿児島医療センターでは、平成27年度鹿児島県がん診療連携拠点病院医科歯科連携推進事業を鹿児島県から委託されました。本事業は、鹿児島県民へがん治療と口腔管理の必要性についての認識を広く普及するとともに、がん治療及び歯科医療に従事する関係者の資質向上と連携体制の構築を図り、医科と歯科の連携による適切ながん医療の提供を推進することを目的としています。がん医療の医科歯科連携推進のための講習会の実施は本事業内容の1つです。本委託事業のもと鹿児島医療センター主催によるがん診療における医科歯科連携講習会を本年度は平成27年9月12日に第1回、12月5日に第2回の講習会を開催し、今回平成28年2月20日(土)に鹿児島市医師会館大会議室において「第3回がん診療における医科歯科連携講習会」を開催しました。本年度最後の今回の講習会は、実際の地域でのがん診療における医科歯科連携の取り組みについて医科の立場から意見を頂き、医科歯科の意見が交換できる機会となるような企画で開催しました。

講習会は花田修一院長による開会挨拶により開演しました。まず講演として『鹿児島県各市郡でのがん診療医科歯科連携の取り組み』と題して、鹿児島県歯科医師会理事福原和人先生の座長のもと、南九州病院外科部長小倉芳人先生には「当院でのがん医科歯科連携の現状～始良地区での立ち上げについて～」、出水郡医師会広域医療センター副院長・消化器病センター長今村博先生には「地方での医科歯科連携の構築」をそれぞれご講演いただきました。続いて、がん診療医科歯科連携を先駆的に取り組み推進している熊本県の現状について熊本赤十字病院血液腫瘍内科部長吉田稔先生を講師に招き、中村康典歯科口腔外科医長の座長のもと、『熊本県医科歯科連携の現状～スクラムを組んで～』の特別講演を行いました。最後に、講師の小倉芳人先生、今村博先生、福原和人先生、吉田稔先生をパネリストとしてパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションではパネラーの先生方と会場の参加者との間でがん診療における医科と歯科との連携について活発な意見交換が行われ、今後の課題も見え非常に有意義な講習会となりました。

今回の講習会でも、医師、歯科医師、看護師をはじめ多くの職種の方々が参加され114名の医療関係者の参加を頂きました。アンケートでは満足度、理解度が95%以上あり本年度の委託事業としておおむね満足できる講習会が開催できたのではないかと考えております。本事業については、引き続き来年度も当院に委託が予定されております。来年度の講習会では本年度の内容を踏まえより実践的な内容を企画していきたいと考えております。

最後に、本講習会開催にあたり、ご協力、ご支援頂きました院内各部署および、各施設、団体に厚く御礼申し上げます。また、来年度も本事業に対するご理解、ご協力、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(文責：歯科口腔外科医長 中村 康典)

